

第4学年2組 道徳科学習指導案

平成31年1月15日(木)5校時

主題名：夢をかなえるために A(5) 希望と勇気、努力と強い意志

資料名：日本人初の金メダリスト

男子18名 女子20名 計38名

指導者 藤田 裕也

主題について

ねらいとする価値

児童が一人の人間として自立しよりよく生きていくためには、常に自分自身を高めていこうとする意欲をもつことが大切である。そのためには、自分に適した目標を設定し、その目標達成に向けて、見通しをもち継続的に取り組むことが求められる。夢や目標をもつことは、生きがいややりがいを感じ前向きに生きようしたり、より高い目標を立て困難を乗り越えようと勇気を奮い立たせたりすることにつながる。

本時では、夢をもつ児童に夢や目標に向かって努力する意義を学び、自身を振り返ることで、努力の良さや難しさを感じながら、将来に向けて自ら努力をしていこうとする道徳的判断力を育成する。

児童の実態

- ① 児童は9月に学級活動A-(5)の項目において「将来について考える」という学習の中で自分自身のこれでの生活を振り返り、将来の自分はどうな自分になりたいか考え、自分なりのイメージをもっている。
- ② 自分の将来像が明確もっている児童も多くいるが、具体的に夢に向かって何か取り組んでいる児童はほとんどいない。
- ③ 道徳科の授業では、友達とのいろいろな考えに触れ合うことが好きで、他の教科より意欲的に授業に取り組む児童が多い。しかし、自分なりの考えや感じ方を持つことはできるが、発表が消極的になり、自己開示を積極的に行えない実態が見られる。

考え、議論する道徳の時間を充実させるために

○ ねらいとする道徳的価値を理解させるための導入や教材との出会いの工夫

本時で扱う織田幸徳は、子どもたち自身の住む海田町ゆかりのある人物であり、学校の職員室の前にも大々的に紹介されている人物である。しかし、多くの児童が織田幸徳の概略しか知らず、どのような苦悩を経て、金メダルを獲得したかほとんど知らない状態である。本時で扱う資料は、海田町にあるふるさと館の福館長からの協力を得、もともと広島県オリジナルの道徳教材として六年生用につくられた教材を四年生用につくり替え、また、本テーマである「努力」についてより深く学べるよう現存する織田幸徳に関する様々な資料をもとに、道徳教材として充実させたものである。そのため、児童が地域ゆかりのある織田幸徳を学びながら、「努力」という道徳的価値を迫ることができると考える。

○ 児童が「努力」について考えを広げ、努力の良さや難しさを考えることができる発問

本時の内容項目は「希望と勇気、努力と強い意志」であり、その中でも「努力」についてねらいの焦点を絞る。児童はこれまでの学習の中で自分が将来どのようにになりたいかというイメージをもっている。しかし、そのイメージをこたどり着くために具体的に、また継続的に努力している児童は少なく、努力がどのようなことを意味するのか自分なりの答えをもっている児童も少ない。そのため、本授業では海田町ゆかりのある織田幸徳を題材に、織田幸徳がオリンピックまで行ってきた行動から、自分なりに「すごい」と感じた行動を感じ取らせる。このことから、努力は「すごいこと」であると感じるとともに、努力の良さや難しさを感じさせたい。

○ 児童が実感を伴う納得解を得、実生活に生かすことができる道徳学習プログラムの作成

夢や目標に向かって努力することができるようにするためには、自分の将来像を明確にもち、自信をもって自身が設定した課題に取り組んでいく必要がある。そのため、自己理解や課題設定を行う活動が求められる。また、本時の学習を終えてもあらゆる場面において本時の学習が生きていく学びの場にならなければならない。そこで、児童がこれまで問題意識をもっていた点に気付いたり、自分について見つめ直したりすることができるように道徳学習プログラムを作成し、次のような工夫をする。

事前で学級活動において「将来について考える」という活動を行い、自分の将来について考え、また他者の考えとも比べながら、自分の将来について改めて考え直す活動を行う。ここでは自分の将来像について、なぜそのように考えているのか自己対話し、他者の考えも聞きながらもう一度自己の考えを見つめさせたい。

本時では、展開後段において「織田幸徳さんのすごいと思ったところはどこですか?」という発問に対し、織田幸徳の具体的な行動をもとに努力を考えさせる。また、自分なりにすごいと思うところを挙げることで、自分なりの「努力」や他の人の「努力」に対する考えを見合い、努力に対する考えが深まるのであつちと考える。展開後段においては、自分のことを見つめ直すことができるように、事前アンケートと同じ形式で問い、自分の考えがどのように変容したか確認できるようにする。授業後は、総合的な学習の時間の「二分の一成人式をしよう」との関連を図り、自分の決めたことを自信をもって宣言できるように設定する。

本時の学習

(1) 本時の目標

織田幹雄さんの物語を通して、主体的に取り組むことや振り返ること、継続することの良さや難しさを考えることを通して、将来に向けて自ら努力をしていこうとする道徳的判断力を育成する。

(2) 本時の学習展開

過程	学習活動 ○主な発問 ●中心発問 ・予想される児童の心の動き	◇指導上の留意事項 □道徳学習プログラムとの関連 □考え・議論する時間の工夫 *評価
導入	<p>1 努力に対する意識アンケートの結果を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ あなたは今、何か努力していることはありますか。 ○ 努力することとはどういうことだと思いますか。 ・ 練習すること。 ・ 毎日勉強すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 事前アンケートをもとに、自分たちが努力に対してどのようなイメージを思っているか、視覚的に示す。 ◇ テーマである努力について、自分たちの意見を見合うことで、本時のテーマにより入り込めるようにする。
展開	<p>2 資料について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 織田幹雄さんのすごいと思ったところはどこですか。 ・ 毎日の自分が取り組んだ練習を細かく記録したこと。 ・ 何日も何日も瀬野川に向かってジャンプする練習を続けたこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 資料に子どもたちが入り込みやすいよう、挿絵や掲示資料、当時の金メダルを取った時の映像を用いて教材を読み進める。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>□考え、議論する時間の工夫①</p> <p>発問を「織田幹雄さんのすごいところ」とすることで、織田幹雄さんの努力を本文から探しつつ、自分と織田幹雄さんを比較しながらすごさを感じ取らせる。また、自分なりの「努力」や他の人の「努力」に対する考えを共有することを通して、努力に対する考えが深まるのではないかと考える。</p> </div>

展 開	<p>○ 思い通りにとべていたジャンプもとび方がわからなくなり、苦しんだ幹雄さんはどのようなことを考えたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ なんでもうまく跳べないんだろう。 ・ 諦めずに頑張らないと。 ・ このまま続けてもいい結果はでないかもしれない。 ・ 苦しい、辛い、やめたい。 <p>● なぜ織田幹雄さんは金メダルを取ることができたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が考えてやったことが良かったのか、悪かったのか振り返るように心がけていたから。 ・ 練習を自分で考え、工夫していたから。 ・ 最後まで諦めなかったから。 ・ 強い気持ちをもってやり続けたから。 <p>3 自分の生活を振り返る。</p> <p>○ みんなにもうまくいかなかったり、つらかったりした経験がありますか。その時どうしましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体育の時間の高跳びでうまく跳べなかったとき、跳ぶのをやめました。 ・ 音楽のリコーダーがふけずに、そのままにしてしまいました。 	<p>◇ 「みんなにもうまくいかなかったり、つらかったりした経験がありますか。」 「その時、あなたはどう思いましたか。」等を投げかけながら机間指導を行い、児童が織田幹雄さんに自分を重ねながら、織田幹雄さんの気持ちを考えることができるように支援する。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>□考え、議論する時間の工夫②</p> <p>前の発問と関連させながら発問することで、織田幹雄さんが常に成功し続け成功したわけではないことを踏まえながら考えさせる。ここでは、初発の質問に対する考えがもう一度で出る可能性があるが、そこには「つらいときも諦めず」ということも加わり、これまでのすごいと思っていたこと、並びに新しく気付いたことも、すべて努力だったと道徳的価値を深めることができると考える。</p> </div> <p>◇ 織田幹雄さんの苦悩を、自分の生活と関連させ、自分のこととして考えさせる。出にくいようなら、これまで体育で行ってきた活動や総合の時間でのことを例に出し、より具体的に考えられるようにする。</p>
終	<p>4 本時の学習を振り返る。</p> <p>○ 今日の学習を振り返って、努力することとはどういうことだと思いましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 織田幹雄さんは夢をかなえるために、自分で練習を工夫したりする努力をしていたことが分かった。自分はコーチに 	<p>* 本時の学習で学んだことをもとに自分の生活を振り返り、努力に対してどのような考えを持つことができたか。（ワークシート、発言）</p>

末	<p>言われたことをただやるだけだったので、自分が練習を考えたりする努力は、とてもすごいと感じた。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 織田幹雄さんはあきらめず努力すること続けていることが分かった。自分は、これまでできないとあきらめたりしてきたけど、自分も織田幹雄さんのように夢に向かって、つらいことがあってもあきらめずに努力していきたい。	
---	--	--

(4) 板書計画

日本人初の金メダリスト

織田幹雄

アンケート結果

○ 織田幹雄さんのすごいと思ったところはどこですか。

- ・ 毎日の自分が取り組んだ練習を細かく記録したこと。
- ・ 何日も何日も瀬野川に向かってジャンプする練習を続けたこと。

○ 思い通りにとべていたジャンプもとび方がわからなくなり、苦しんだ幹雄さんはどのようなことを考えたでしょう。

- ・ 自分には才能がないかもしれない。
- ・ このまま続けてもいい結果はでないかもしれない。
- ・ 苦しい、辛い、やめたい。

○ なぜ織田幹雄さんは金メダルを取ることができたのでしょうか。

- ・ 自分が考えてやったことが良かったのか、悪かったのか振り返るように心がけてから。
- ・ 練習を自分で考え、工夫していたから。
- ・ 最後まで諦めなかったから。
- ・ 強い気持ちをもってやり続けたから。

○ みんなにもうまくいかなかつたり、つらかつたりした経験がありますか。その時どうしましたか。

- ・ 体育の時間の高跳びでうまく跳べなかつたとき、跳ぶのをやめました。
- ・ 音楽のリコーダーがふけずに、そのままにしまいました。

努力

成功